

保育士試験 「子ども家庭福祉」 過去問分析 出題予想（傾向と対策）

※社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の資格者は免除される科目

はじめに 試験問題の解答には文章や文脈による“流れ”をつかむことが大切です。以下の文章に何度も同様の表現が出てきますがご理解ください。ケアレスミスは「分かった！！」と思った瞬間に問題を全部読むことを中止したり、読み返すことをしなかったりするために発生するケースが多いのです。とくに事例は日常の経験から解答できる問題がほとんどといっても過言ではありません。試験は受験して合格するだけでなく保育についての必要な知識が自然と理解できるので、勉強していてとても充実した気持ちになります。当然合格した時の達成感と言うまでもありません。

1. 解答形式 過去 100 問中

○×形式 35 ()形式 21 不適切(正)形式 24 並替形式 4 I・II群 7 他 9
○×は絞り込み 組合せは文章をよく読み文脈で 不適切問題はよく読んで確実に

2. 6割12問(10問出題は6問) 得点のための出題出所内訳(キーワード)

A 子ども・子育て支援法 合計 11問

B 事例 合計 8問

C 里親関連 合計 6問

D 児童養護施設 合計 6問

E 子どもの権利条約 合計 6問

F 放課後児童健全育成事業(放課後等デイサービス) 合計 5問

G 要保護児童対策地域協議会 合計 5問

H 家庭的保育事業 合計 4件

I 児童相談所 合計 3件

3. 子ども・子育て支援法

条文の目的から定義までは一読して損はない。

4. 国内人物

人物の出題は少ない。過去 5 回で 1 回出題されている。社会的養護と重複する人物であり、テキストの一覧表の特徴を学園や保育園など施設名とリンクして覚えると他の科目にも共通して便利。

5. 里親関連

確実に出題されると思っていいだろう。里親は要保護児童を養育することを希望する者

で都道府県知事が認められること。テキストが里親について一覧表にまとめてあるのでそれぞれの違いを理解しよう。ファミリーホームも里親登録するものとしがないものがあるので要注意。

6. 科目としての難易度

この科目は項目が多岐にわたるので勉強するのにどこから始めればいいのかとても迷う。そこでアドバイスとしては出現率の高いキーワードを押さえてほしい。とくに子ども・子育て支援法（正式には子ども・子育て関連3法）とその事業を中心に事例、里親、施設、権利条約など主要項目は索引を上手に利用して関連した記憶ができるようになりたい。難易度としてはテキストのとおりの出題ではないため、関連した理解が必要で少々手ごわい。過去問を繰り返し解答してみて“出題をきちんと読むことに慣れる”ことができるようにつとめたい。

ご注意：この出題予想で試験が合格できるわけではありません。受験する人のモチベーションアップに貢献することで、受験勉強をより楽しく、効率的にしたいという思いで作成しています。

参考テキスト

「保育士 完全合格テキスト 上・下」翔泳社

参考サイト

厚生労働省

参照法令

子ども・子育て支援法